「こおりやまの米」通信

平成２６年６月１日

編集：郡山市
JA 郡山市（TEL. 921-0724）
NOSAI 郡山田村（TEL. 933-3307）
県中農林事務所農業振興普及部（TEL. 935-1310）
発行：郡山市農作物生産対策協議会（郡山市農業振興課 TEL 924-3761）

郡山市
イメージキャラクター
「がくとくん」

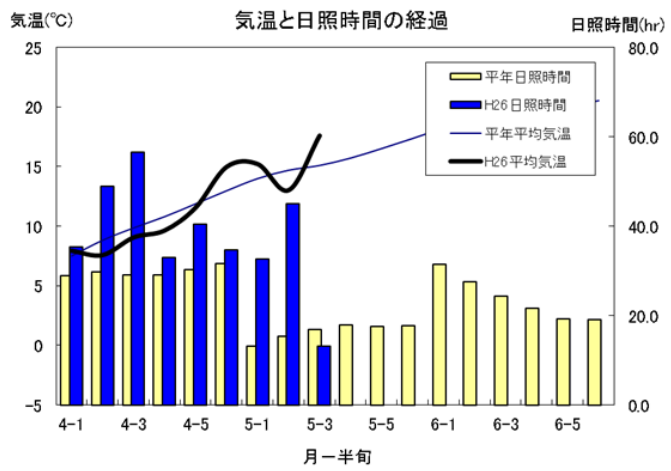
Vol.4　「除草・防除・中干し」次回は６月下旬

＊最新号はＪＡ各支店に備え付けてあります。

１　生育状況

播種盛期は４／１６（平年４／１７）、移植盛期は５／１５（平年５／１６）となり、播種、移植ともに平年より一日早くなりました。育苗期間は不安定な天候が続き、苗の不揃いが目立ちました。

移植後は周期的に風の強い日があり、一部で植え傷みが発生していますが、生育は概ね良好です。



２　天気予報（東北地方）

【１か月（5/24～6/23）予報】(5月22日　仙台管区気象台発表)

天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう１か月の降水量は、平年並または少ない確率ともに４０％です。日照時間は、平年並または多い確率ともに４０％です。

週別の気温は、１週目は、高い確率５０％です。

【３か月予報】(5 月 23 日　仙台管区気象台発表)

向こう３か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等は以下のとおりです。

６月⇒前半は、天気は数日の周期で変わる見込みです。後半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。降水量は、平年並または少ない確率ともに４０％です。

７月⇒平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。気温は、平年並または低い確率ともに４０％です。降水量は、平年並または多い確率ともに４０％です。

８月⇒東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。気温は平年並または低い確率ともに４０％です。降水量は、平年並または多い確率ともに４０％です。

３　水管理　「浅水で有効茎を早期に確保しましょう！」

○**活着後は、浅水**で水温の日較差を大きくし、有効茎を早期に確保しましょう。

○稲の直りが悪い場合は、土壌還元による根腐れで養分を吸収できない状態になっている恐れがあります。田んぼに入るとブクブクと泡が出たり、くさい臭いがしたりする時は、早めに落水し１～２日干してガスを抜きましょう。

４　雑草防除　「カメムシ発生の抑制には、確実な残草対策が有効です！」

（１）雑草が残った場合

○残った雑草の種類によって除草剤を選択し、適期に追加防除しましょう。

ヒエだけが残った場合　**クリンチャー１キロ粒剤**

※ヒエ４葉期まで１．０kg/10a散布、ヒエ５葉期まで１．５kg/10a散布

広葉雑草だけが残った場合　**バサグラン粒剤（ナトリウム塩）**　等

※移植後１５～５０日（クログワイは移植後１５～３５日）

（バサグラン粒剤（ナトリウム塩）は、落水して散布して下さい。）

ヒエも広葉雑草も残った場合

ハイカット１キロ粒剤　※ヒエ３．５葉期まで。

フォローアップ１キロ粒剤　※ヒエ５葉期まで。

（２）アオミドロ、表層はく離が出た場合

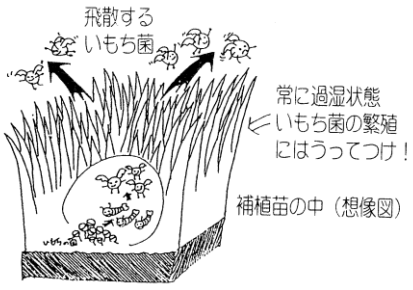
アオミドロや珪藻類の発生量が多いと、水温の上昇を妨げ、分げつ阻害をもたらし生育不良となる恐れがあります。

アオミドロや表層はく離は、代かき後や田植後の施肥によって発生することがありますが、発生した場合は、落水してアオミドロ等を田面に付着させてから再度入水するか、**モゲトン粒剤**を散布してください。

５　葉いもち防除　「葉いもちを発生させないことが最善の穂いもち対策です！」

（１）置き苗の処分

〇補植用の置き苗は葉いもちの発生源となってしまいます。
補植作業は５月末までに完了し、置き苗は水田やその周囲に放置しないようにしましょう。



（２）本田の粒剤防除

〇箱施薬剤を使用していない水田では、**オリゼメート粒剤**や**コラトップ粒剤５**を、いもち病の初発１０日前～初発時（平坦部では６月２０日頃、山間高冷地では６月２５日頃まで）に散布しましょう。
散布後７日間程度は落水せず、止水で管理してください。

６　害虫防除「農薬を使用する場合は、周辺農作物への飛散（ドリフト）に注意しましょう！」

箱施薬剤を使用していない水田や使用していてもイネドロオイムシが多発した場合は、下記の殺虫剤を使用してください。

農　薬　名	総使用回数 本剤のみを 使用する場合	農薬成分の系統	蚕毒規制地域※
トレボン粉剤 DL・乳剤・EW	３回以内	ピレスロイド系	使えない
シクロパック粒剤	２回以内	ピレスロイド系	使える

※蚕毒規制地域・・・田村町、中田町、西田町、日和田町、安積町、三穂田町の一部が該当します。

注１トレボン、シクロパックは、湛水深３～５ｃｍで散布し、７日以上湛水状態を保ってください。
注２ミツバチなどの有用昆虫に対し長期間影響のある薬剤があるため、養蜂業者との連絡を密にし、事故のないようにしましょう。

７　中干し「有効茎を確保したら、タイミングを逃さずに！」

〇１株当り 20 本程度の分げつを確保したら、中干しを行い，無効茎を抑えてスッキリ型のイネを作りましょう。
〇６～７月は梅雨と重なり、例年雨や曇りの日が多くなります。タイミングを逃さず中干ししましょう。
〇溝切り（４～５ｍ間隔）を併せて行い，水の掛け引きを容易に行なえるようにしましょう。

８　カリ追肥　　「稲体を強化していもち病に備えましょう！」

稲体の強化などを目的としてカリ資材を追肥する場合は、**出穂４０～３５日前（６月下旬～７月上旬頃）に散布**してください。

ケイ酸カリ（出穂 40 日前）２０kg/10a：でき過ぎた田、コシヒカリに有効
ＰＫ化成（出穂 35 日前）　２０kg/10a：一般田

９　放射性セシウムの吸収抑制対策

〇塩化カリの基肥施用を行い、必要に応じてケイ酸カリ等のカリ資材の追肥を行っても、食味や品質に影響はありません。
〇吸収抑制対策のために配布している塩化カリ 20 kg/10a は、最も吸収抑制効果の高い基肥での施用を基本としています。**万が一、基肥で十分な量を施用していない場合は、速やかに全量散布してください。**

この資料は、平成２６年５月９日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

！！平成２６年度福島県農薬危害防止運動展開中！！